

令和８年度第１回 東京都在宅介護・医療協働推進部会主なご意見まとめ

● 令和８年７月１３日（月曜日）開催

● 報告

- （１） 令和８年度在宅介護・医療協働推進部会の設置について
- （２） 令和７年度訪問看護推進総合事業等の実施状況について
- （３） 令和８年度訪問看護推進総合事業等の実施について

● 議事

- （１） 第１０期計画に向けた検討事項について
- （２） その他

（２） 令和７年度訪問看護推進総合事業等の実施状況について

（３） 令和８年度訪問看護推進総合事業等の実施について

<看護小規模多機能型居宅介護に係る連絡会>

- 看多機以外の事業所に向けて、看多機の役割や状況について説明する機会も検討していただけると看多機事業所の増につながるのでは。
- 看多機の人材不足に対して、医療・介護職養成校に対して看多機を周知してはどうか。
- 興味を持っている企業を対象に情報提供をしてほしい。
- 看多機に移行すると、在宅チームが全て変わってしまうことに不安を感じている方が多い。介護支援専門員との理解の共有や交流等の機会があると、看多機の需要増につながると思う。
(次年度以降、教育ステーション事業が多職種連携・多機能化支援に拡充することで看多機に関する支援も可能と考える。)

（１） 第10期計画に向けた検討事項について

（２） その他

<ステーション同士の協働について>

- 同じ地域内で、訪問看護ステーションや介護事業所が各々緊急当番を抱えている状況。
地域医療連携推進法人の制度のように、横の繋がりを作ったり、教育ステーションと小規模ステーションが一緒になって、実働的に地域を支えることができればよいと思う。
- 小規模事業所が連携や協働する際は、経営の維持のためなのか地域のためなのか、目的をずらさないことが大切である。
- 連携にあたってのＩＣＴツールが乱立しているため、効率よく情報共有できる仕組みの検討が必要。

<第10期計画について>

- 今後様々な状態の方が在宅療養される中では、定期巡回型訪問介護看護や小規模多機能型居宅介護などの地域密着型サービスについても、介護と医療の連携やケアマネの理解を深めていく必要がある。
- 小規模事業所に対して、レセプトや保険情報確認などのD X化、外部委託への支援があると有難い。
- 看多機の黒字化に向けて、ケアマネや都民に向けた看多機の周知、啓発の工夫が必要。

<教育ステーション数について>

- 北区では、教育ステーション数は1、2か所くらいがちょうどいい。と感じている。